

2学期からのチャレンジテストの取組改善について（案）

学推担当：高木・教頭

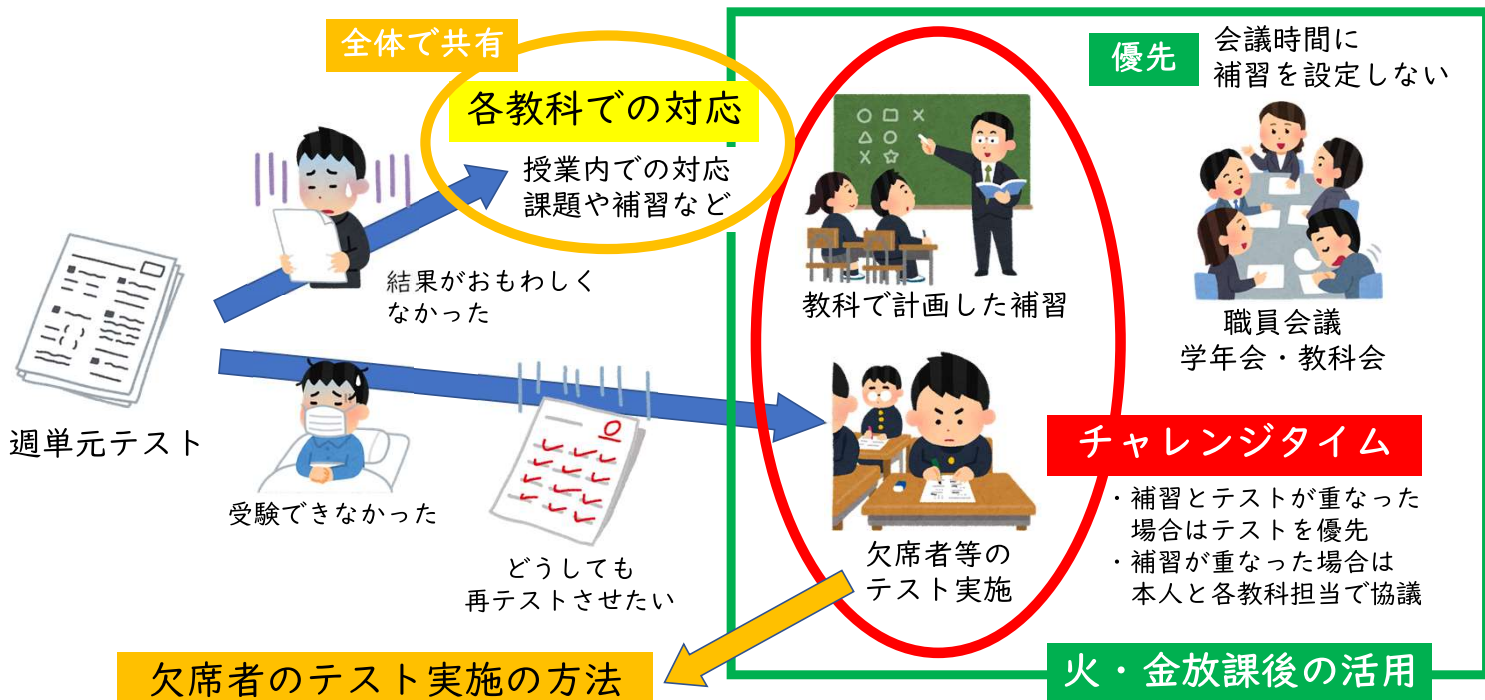
●チャレンジテストの課題

- ①教師にも生徒にも時間のゆとりがない。
- ②特定の生徒が対象になる状況が続いており、負担が大きい。
- ③対象生徒が参加しない現状もあり、作問や呼びかけのストレスが大きい。【3学年】
- ④課題や補習など各教科で工夫した対応ができない。【2学年・国語・社会・英語】



◎チャレンジテストの改善案 → 補習や課題など各教科の対応に任せる

- ①単元テストの結果を受けて、各教科の計画で**学習のPDCAサイクルを推進**する。
(特にC評価の生徒への対応)
- ②欠席等で週単元テストを受験できなかった生徒 → 「**チャレンジタイム**」
○火・金の放課後に受験 ○テスターは学習支援員 ○各学年で1会場設定
- ③火・金の放課後については、**各種会議等の参加**を優先。(補習等の設定に注意)



欠席者のテスト実施の方法

1. 各教科担当者が対象生徒分のテスト問題用紙・解答用紙を用意。
2. 個別の専用封筒に必要事項を記入し、当日の午前中までにチャレンジタイム専用箱に入れる。
3. 各学年所属の学習支援員が指定された会場（教室等）において、テストを受験させる。
4. 回収した解答用紙を専用封筒ごと、各教科担任に返却する。



学年	組	番号	名前	実施日	教科名	備考
3	1	1	前花 和秀	7/1	理科	問題用紙も回収
3	2	22	堂間 保	7/8	国語	15分以上は受験

専用封筒はリサイクルして使用。
終了した内容については線を引いて消す。

チャレンジタイム
専用封筒

チャレンジタイムの活用で、欠席生徒の受験を授業内で対応する必要がなくなります。
※早めの実施したい等の理由で、授業内で実施しても構いません